

(様式3)

令和7年度 富山商業高等学校アクションプランの重点課題 — 1 —

|      |   |  |
|------|---|--|
| 重点項目 | 学習活動  |  |
| 重点課題 | 教科指導の充実と確かな学力の向上  |  |
| 現 状  | ・生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図るとともに、生徒に意欲をもって授業に取り組み、確かな学力を身に付けさせることが必要である。             |  |
| 達成目標 | ①指導力の向上を意識した授業改善<br>・他の教員の授業を、各学期1回以上参観する。<br>・生徒の学習に対する取り組み方や授業内容の理解度、満足度に関する状況調査をアンケート方式で行う。授業内容の理解度80%以上 | ②課題設定力・解決力を身に付けさせる<br>・目標達成度自己評価表により、年3回以上評価基準に照らし合わせ自分を振り返る。<br>・自己評価シートで項目ごとにチェック。課題解決力6項目で、S・A評価が全体の50%以上   |
|      | 方 策   | ・各学期に互見授業週間(年2回)を定め、各週間に他の授業を各3回以上参観する。<br>・参観者は、互見授業シートを記入し、授業者及び自らの授業改善に資する。<br>・各科目学習アンケートを取り、生徒の授業への取り組み具合を確認する。<br>・期末考査(年2回)後に、「課題設定力・解決力」6項目(コミュニケーション能力、自主性、協調性、粘り強く挑戦する心、創造性、確かな学力)について、現在のレベルをチェックし、評価の具体的根拠を記入し、提出させる。<br>・学年末に観点別自己評価を実施し、シラバスに対応した知識・技能・思考判断などを身につけられたなど目標達成できたかを自己評価し、提出させる。 |

令和7年度 富山商業高等学校アクションプランの重点課題 — 2 —

|      |   |   |
|------|---|---|
| 重点項目 | 特別活動  |   |
| 重点課題 | 部活動の活性化と競技力の向上  |   |
| 現 状  | ・本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全員部活動制である。運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度の全国大会出場者は116名(16%)、北信越大会出場者は273名(39%)で、全国大会は目標にわずかに届かなかったが、北信越大会は目標を大幅に超えることができた。<br>・部活動は本校の教育活動の柱であるが、その活動目標や活動内容、活動時間について部員がどのように感じているのか、その実態を顧問が把握した上で部員とコミュニケーションを図り、より良い部活動にしていくことが大切である。 |   |
| 達成目標 | ①部活動の個人満足度<br>「とても満足している」「満足している」生徒の割合<br>80%以上   | ②全国大会・北信越大会出場生徒の割合<br>(大会出場者人数÷全校生徒数×100)<br>全国20%以上 北信越30%以上   |
|      | 方 策   | ・部活動の実態(活動目標、活動内容、活動時間)について部員がどのように思っているかを調査し、その結果を各顧問が把握し、部員と改善点を話し合い、部活動の満足度を高める。<br>・各部活動を円滑に運営するために、適宜、部顧問会議やキャプテン会議を開き、諸問題について検討し、改善を図る。 |

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | 学校生活   |
| 重点課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の減少への意識向上と自転車乗車時のヘルメットの着用（自転車利用生徒の100%）</li> <li>・SNSの利用マナーやモラルの向上</li> </ul>  |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内全域から通学しており、入学当初は慣れない通学による自転車による交通事故が起きている。</li> <li>・昨年度の交通事故は15件で、重大な事態に繋がる危険性を秘めている。また、自転車の乗車マナーについても、地域からご指摘を受けることもある。</li> <li>・自転車乗車時のヘルメットの着用が努力義務化されたが、着用してくる生徒は少ない。</li> <li>・SNSの利用マナーや、モラルの欠如によるトラブルがいじめに発展するなど多くの危険が潜んでいる。</li> <li>・安易にSNSで写真や動画を投稿してしまうことが見受けられ、指導を行うことがある。</li> <li>・風紀委員の活動が活発化してきたが、まだ自主的な活動までには至っていない。</li> <li>・風紀委員会のスマートフォン等や自転車のマナー向上啓発運動がまだ浸透していない。</li> </ul> |
| 達成目標 | <p>①交通事故件数の減少（前年度15件）<br/>自転車乗車時のヘルメット着用、自転車利用生徒の100%着用を目指す。</p> <p>②SNSの不適切な利用に関するトラブル年間0件</p>  |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に自転車点検、5月に交通安全指導講話を開催し、規範意識やマナーの向上と自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかける。</li> <li>・風紀委員が警察署や関係機関と合同で、自転車施錠やマナー向上の呼びかけを行う。</li> <li>・7月にSNS危険防止教室を開催し、SNSの利用マナー向上に努める。</li> <li>・生徒のスマートフォン等使用に関する実態把握に努め、風紀委員会で、マナー向上や適正なスマートフォン利用時間等のためのポスターや掲示板作成を実施する。</li> </ul>   |

|                            |   |                            |                        |
|----------------------------|---|----------------------------|------------------------|
| 重点項目                       | 進路支援  |                            |                        |
| 重点課題                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や職業についての幅広い知識・理解とともに職業観・勤労観を育む。</li> <li>・自己理解を深めさせ、一人一人が能力や適性に合った進路選択ができるよう支援する。</li> <li>・自分の考えや思いを的確に表現できる文章記述力を系統立てて指導する。</li> <li>・個に応じた組織的・計画的な取り組みを通して、より効果的な進路支援を行う。</li> </ul>                                       |                            |                        |
| 現 状                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観・勤労観の育みが遅い生徒は、自己の進路希望・進路目標の確立も遅い傾向がある。</li> <li>・生徒自身の自己理解が不十分な生徒は、適性や能力に適合しない進路選択をする場合がある。</li> <li>・近年の大学等募集人員や受験倍率の変化、求人数増加による就職希望先の選択肢拡大により、生徒の安易な進路選択が中途退学や早期離職などにつながらないよう、生徒自身の自己理解を深めさせる配慮がより一層重要になってきている。</li> </ul> |                            |                        |
| 達成目標                       | <table border="1"> <tr> <td>①小論文における記述能力<br/>小論文模試の評価向上</td> <td>②第3学年生徒の進路満足度<br/>98%以上</td> </tr> </table>  | ①小論文における記述能力<br>小論文模試の評価向上 | ②第3学年生徒の進路満足度<br>98%以上 |
| ①小論文における記述能力<br>小論文模試の評価向上 | ②第3学年生徒の進路満足度<br>98%以上  |                            |                        |

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p style="text-align: center;">方 策</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の要約や自分の意見をノートにまとめさせ、日頃から観察力や分析力を鍛え、思考を文書化する表現力を育成する。</li> <li>・国語科と協力して国語の授業を活用し、小論文記述力を学年進行で向上させる方策を実施する。</li> <li>・1, 2年は年間3回、3年は年1回の小論文模試を実施する。</li> <li>・外部講師によるガイダンスを実施し、幅広い知識や考え方を養う。</li> <li>・生徒を指導する教員に対しても小論文指導のためのガイダンスを実施し、教員の指導力向上を図る。</li> <li>・小論文模試では、「説得力」「構成力」等の評価の向上を目指す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス等を計画的に実施し、より早い段階から具体的に自らの進路を考えさせる。</li> <li>・進路適性検査等により、自己の能力・適性を考える機会とし、適切な進路選択を行うよう指導する。</li> <li>・進学就職後の自己実現を見据えた生徒の進路実現に向け、丁寧な進路指導に取り組む。</li> <li>・生徒の進路志望状況をできるだけ具体的に把握するとともに、家庭との連携を図るため、進路選択に必要な適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。</li> <li>・進路実現を目指す生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。</li> <li>・3年時に大きな進路希望変更がある場合、十分な話し合いと保護者との緊密な連絡を行う。</li> </ul> |
|--|---|--|

|      |  |   |
|------|--|---|
| 重点項目 | 学習指導   |   |
| 重点課題 | 1 授業の充実 2 検定・資格取得の向上   |   |
| 現 状  | 全商検定 1級3種目以上合格者（第3学年）<br>令和4年度 80名（29%）（3学年7クラス）<br>令和5年度 86名（37%）（3学年6クラス）<br>令和6年度 90名（38%）（3学年6クラス）<br>全商検定 簿記2級合格者<br>令和4年度 146名（60%）（1学年6クラス）<br>令和5年度 182名（80%）（1学年6クラス）<br>令和6年度 154名（71%）（1学年6クラス）   |   |
| 達成目標 | 1 授業の充実  | 2 検定・資格取得の向上  |
|      | 生徒の授業満足度<br>80%以上  | 全商検定1級3種目以上合格100名以上<br>（約40%）<br>全商簿記2級合格170名以上<br>（約70%） |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト学習による探究的な学びとデザイン思考を取り入れた学習指導の展開。</li> <li>・学年統一実施の課題テストによる、生徒の学習進捗状況の確認と指導。</li> <li>・2学期末考査後に検定対策の授業を毎日1時間設け、約2週間継続して実施。</li> <li>・検定試験直前期に7限目を設け、約3週間検定合格に向けた指導を実施。</li> <li>・熟練教師が若手の授業を参観し、週末に意見交換会にて指導力の向上に向けて取り組む。</li> <li>・生徒の記憶定着システム（モノグサ）による、検定学習に向けた隙間時間の活用や自宅学習での活用を促進。（自宅学習における一人一台貸与のタブレットを活用）</li> <li>・地域や企業、教育機関等、外部と連携した授業の拡大、充実を促進し、官学産連携による商品開発や金融教育を実施。</li> </ul> |   |

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 学習活動  |
| 重点課題 | 生徒販売実習「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通して社会人基礎力を育成する   |
| 現 状  | 社会人基礎力の3つの能力のなかで「考え抜く力」を苦手としている生徒が多く、第1回目（10月）の評価でレベル1（発揮できていない（どうしてもできない））を付けた割合が他の能力より多い。「TOMI SHOP」だけでなくあらゆる学校生活の中で「考え抜く力」は非常に大切な能力である。また、前年度の最終評価でレベル3を付けていても、次年度になると評価を下げている生徒も多く、期間限定の能力となっていることから、成長した能力を維持できるような手だてが求められる。  |
| 達成目標 | 「考え抜く力」の能力要素である「課題発見力」の最終自己評価のレベル3（通常の状態でも効果的に発揮できている（見事にできている））の割合<br>A 40%以上 B 30%以上  |
| 方 策  | ①商業科の授業の中でケーススタディを行い、個人またはグループで取り組むことで「考え抜く力」を養う。<br>また、ケーススタディの題材に担当企業を取り入れることで、課題やその課題に対する解決策を具体的に考えられるようにする。<br>②どのような店舗にしたいか目標を定め、共有する。<br>目標を定めておくことで、現実との差を感じ、その差を課題と認識することができる。<br>③各営業日の閉店後に、ミーティングを設定する。<br>活動を振り返ることで課題が見える。また、解決策を考え実行する経験を積むことができる。<br>④事後のTSHRで自分自身と他者を認めるワークを行う。<br>「TOMI SHOP」の準備や運営で、頑張っていた他者や自分自身を認めることにより、自己評価を高めることができる。 |

|      |   |   |
|------|---|---|
| 重点項目 | 特別活動  |   |
| 重点課題 | 図書館の利用促進  |   |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年図書館オリエンテーションで選書、貸し出し体験を行っており、読書へのきっかけ作りにはなるが、2、3年の図書館利用が伸びない。</li> <li>・タブレットを活用した授業へのシフトにより、図書館利用が減少している。探究的な学習活動に関連する蔵書を増やし、資料センターとして、授業その他で活用しやすい図書館を目指していきたい。</li> <li>・デジタル媒体の浸透や生徒の多忙化の現状はあるが、読書を通して自らの生き方や社会のあり方を考える良書と出会える場が必要である。</li> </ul>  |   |
| 達成目標 | ① 図書館行事と企画展示の充実<br>教養講座やビブリオバトルと連動した企画展示を行い、参加者を増やす   | ② 図書館の利用促進<br>年間1冊以上図書館の本を借りる生徒の割合70%以上 |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養講座やビブリオバトルの参加者を増やすため、行事と連動した企画展示や事前の広報活動などを図書委員会を中心に活発化する。</li> <li>・1学年での図書館オリエンテーション後も継続して図書館を利用する生徒を増やすために学年に応じた書籍・資料を充実させる。</li> <li>・担任、教科、進路と連携してLHでの進路学習や教科の探究活動、小論文指導等で図書館利用を促進する。</li> <li>・「新刊図書案内」（図書部発行）をGoogleクラスルームで配信するなど、ICTを活用した広報活動を展開する。</li> <li>・図書館だより（生徒図書委員会発行）や各企画展示を充実させ、図書館に足を運びたくなる環境を整える。</li> <li>・進学や就職実現のための小論文関連本など、進路実現に有効な本を整える。</li> <li>・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望を多く取り入れ、利用を促進する。</li> <li>・図書館の検索システムを活用し、生徒自身が必要としている本を自力で探す力を身に付ける。</li> </ul> |   |

|      |   |                                |
|------|---|--------------------------------|
| 重点項目 | 学校生活  |                                |
| 重点課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が日常生活において災害を未然に防止し、自分と他人の生命を守り障害を防止し、安全な生活をおくるとともに、正しい理解と態度を養う。</li> <li>・教職員間で生徒理解を十分に図り、心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリング、専門医への繋ぎなど充実を図る。</li> </ul>   |                                |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入は、任意であり掛け金や保護者の同意書も必要であるが加入率は100%を維持している。生徒や顧問、授業担当者への注意喚起をしているが、事故発件数自体は減少が見られない。</li> <li>・様々な心理的な問題を抱え、不登校や保健室登校となる生徒がおり、教職員は生徒理解のためと教育相談スキルの向上が欠かせない現状である。</li> </ul>   |                                |
| 達成目標 | 応急手当の講習会を実施<br>年2回  | 半期ごとに研修会の実施<br>年3回（生徒1回、教職員2回） |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や顧問、担任、授業担当者へ、AED校内設置場所の認識を図るとともに、危険箇所や事故の起こりやすい状況等について注意喚起する。また、生徒自身が危険を予知したり回避したりできるように、応急手当講習会を実施する。</li> <li>・研修会を通じて、生徒理解のスキルアップをめざす。また、心理的な原因による体調不良等の生徒対応を円滑に行うため、担任や顧問、学年主任、保健厚生部、保護者が連携して問題解決に取り組み、スクールカウンセラーや医師などの専門家の効果的な活用を図りながら、確実な問題の解決にあたる。</li> </ul> |                                |

|      |   |                  |
|------|---|------------------|
| 重点項目 | その他   |                  |
| 重点課題 | P T A活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する  |                  |
| 現 状  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A総会への出席率は、3学年の進路説明会を同時開催することで50%を超える水準となっている。</li> <li>・ 本校独自のP T A事業として行っているP T A視察研修の満足度は90%を超える水準で、参加者も増加している。</li> <li>・ 生徒販売実習「TOMI SHOP」駐車場係への協力呼びかけも盛んに行っている。</li> </ul>  |                  |
| 達成目標 | ① P T A定期総会時の説明による学校の教育方針に対する理解度  | ② P T A視察研修事業満足度 |
|      | 90%以上   | 90%以上            |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A定期総会の土曜日実施と1・2年生の授業参観・3年生の進路説明会・学年別懇談会の同日実施を継続し、保護者の日程的な負担を軽減することで、保護者が参加しやすくなる環境を整える。</li> <li>・ P T A定期総会時の学校長・進路指導部長・生徒指導部長による学校全体の概況説明、学年別懇談会での指導方針を説明してもらうことで、本校の教育方針に対する理解度をより深める機会とする。</li> <li>・ P T A視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。</li> <li>・ P T A事業について多くの会員の参加を得られるように、行事内容を配布物と学校HPでの配信と両方で行う。</li> <li>・ 機会ある毎に情報メール受信の登録を促し、多くの保護者に情報配信できる体制を整える。</li> <li>・ 個人情報の扱いに留意しながら、QRコードによる出欠確認・意見集約を行い、保護者と教員の連携にスピード感を出す。</li> </ul> |                  |